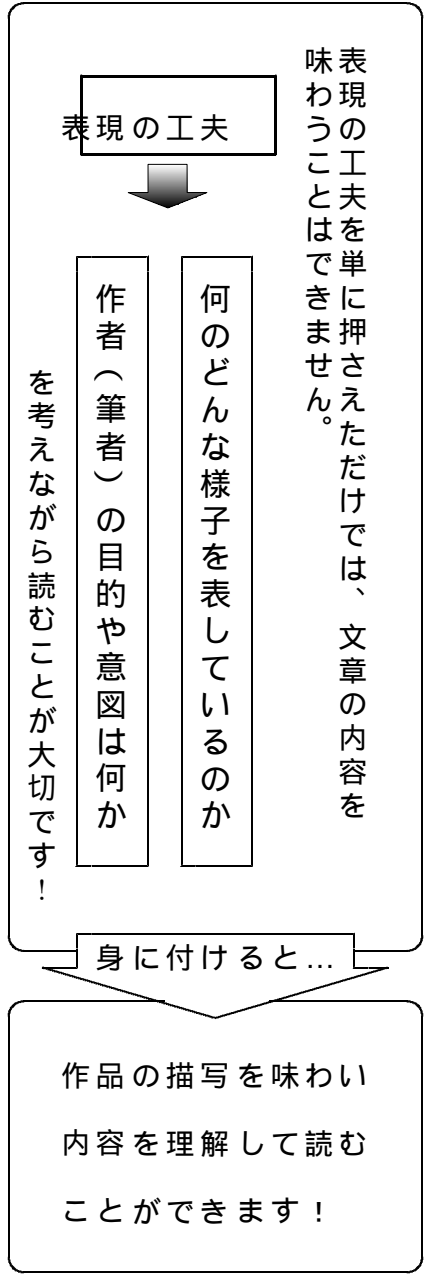


4	読む	表現の工夫をとらえる 〔確認〕	名前	解答
---	----	--------------------	----	----

表現の工夫を単に押さえただけでは、文章の内容を味わうことはできません。



やってみよう 「解答と解説」

一 常体

・文末表現に注目します。この文章は「だった。」「出してみた。」のように丁寧語を用いていません。のような文末表現の文体を「常体」といいます。

二 1 イ (たとえの表現)

・「よつな」という言葉を用いて、青く透きとおるような富士を見た時の不思議な気持ちを「狐に化かされている」とたとえて表現してあります。

2 例

・富士が、したたるように
・燐が燃えているような感じ
・足のないような気持ちで

・「よつだ」「よつに」「よつな」「あたかも」等の言葉を使ってたとええます。これらの言葉を手がかりにして探しましょう。

三 ア 下駄(げた)の音をまねて表してあるので擬音語。

・擬人法は比喩法の一つで、何かを人にたとえる表現技法です。

擬音(声)語: 物の音や生き物の声等をまねて表した語

擬態語: ものの状態をいかにもそれらしく表した語
(例) ドンドン・ワンワン
(例) のっぺり・こっそり

四 ア

・短文を多用してリズム感を出す工夫は、太宰治の他の作品にもみられます。
〔知っておきたい表現技法〕

直喩	「まるで」「よつだ」「みたいに」などの言葉を使ったとえ。 (例)りんごのようなほっぺただ。
隠喩	「まるで」「よつだ」などの言葉を使わずにとえ。 (例)人生は旅である。
擬人法	人間でないものを人間に見立てたとえ。 (例)木の葉が舞い踊る。

その他の表現技法	文を言い切らずに言葉を省略する (例)世界は広い、そして...
省略法	同じ言葉、または多少変化させた言い方をくり返す。 (例)決して、決して許さない。
反復法	主語・述語などの語順を、普通と入れかえる。 (例)忘れない、君の声を。
倒置法	

文体の工夫	口語体と文語体 和文調の文体と漢文調の文
用語	簡潔な述べ方 丁寧(ていねい)な述べ方 断定的な述べ方
文の長さ	常体: だ・である調 丁寧(ていねい)語を用いない。 敬体: です・ます調 丁寧(ていねい)語を用いる。
文末	